

**種の概要**

北海道から山口県にかけての日本海流入河川に分布する。日本海側は干満差が少ないことで干潟の存在がほとんどなく、本種は狭い汽水域と潮間帯にあるヨシ帯などに生息する。ヨシ群落内の底床や漂着物や枯死した枝葉のかたまりの下に見られる。殻長5mm程度、縫合のくびれは次のヒナタムシヤドリカワザンショウ(貝類Bランク)よりもやや深い。殻色は黄褐色から赤みのある茶褐色で、縫合下と臍域はクリーム色となる。若い個体はやや光沢があるが、成貝では虫食い状の微細な浸食が見られる。

**主要な選定理由**

| 人為性   |        |        | 生息環境の特殊性 |       | 学術性   |       |    |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境   | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| ○     | ○      |        | ○        | ○     | ○     |       | ○  |

**県内分布**

豊岡市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

CからAに変更。日本海流入河川の円山川(旧:城崎町南方来日)が模式産地。生息地である円山川の汽水域にある広大なひのそ島は、洪水対策に備え切り下げられるなどの大改修が行われた。改修後の調査が困難なこともあるので調査を実施していないが、環境評価調査における底生動物調査においても近年の記録が報じられていないのが現状である。調査の不備もあるが、円山川においても生息箇所は広くないと考えられ、他河川でも記録できない。

**保護上の留意点**

主たる生息地(ひのそ島)が大きく改修されたことで、今後のモニタリングで再発見されるかどうかは疑問視されるが、工法においては、表土や植物群落を再移植するなどの配慮がとられているなど、既存種に対する配慮がなされている。緩傾斜の干潟がほとんど存在しない円山川においては、治水に影響のない範囲で緩傾斜を造成するなど、環境の多様化を復活させることが望ましい。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修